



♪ ア ス ト ロ ラ マ No. 81 ♪



発行者 桑原由紀子 生駒市上町9-12 ☎07437-8-1969
1992・11・1



芸術の秋、食欲の秋、行楽の秋・・・いろいろな秋も深まってまいりました。私の方、八月から「ヤマギシズム奈良供給所」に勤めるようになり、忙しいながらも充実した日々を送っております。

そんな中、九月には今話題の北京へ、そして十月には奈良県芸術祭参加で「邦楽アンサンブル彩・光彩コンサートⅡ」を無事終えることができました。

今回はそんな報告から・・・

☆☆ 北京でお琴を弾いてきたよ ☆☆

日中国交正常化20周年にあたる今年、記念イベントとして北京ジャパンウィークが開催され、日本から文化交流のため芸能界はじめ、舞踊、お茶、お花など各分野の方達が大量北京をおとづれました。

そんな中の一つに琴の演奏もあり、お友達に誘われたのが今年の春頃、行こうか、行くまいか、ぎりぎりまで迷ったあげく、最後は得意の「エイッ」って心境、思うより行動のユッコさん、お琴をかついで行ってきました。

空から見ても広いなあって感じましたが、空港からホテルまでほとんど直線道路。それでも日本ほどビュンビュンとばす車もなく、全体にゆったり時が過ぎる感じ。

ホテルについて、さっそくコンサートの打ち合せ。

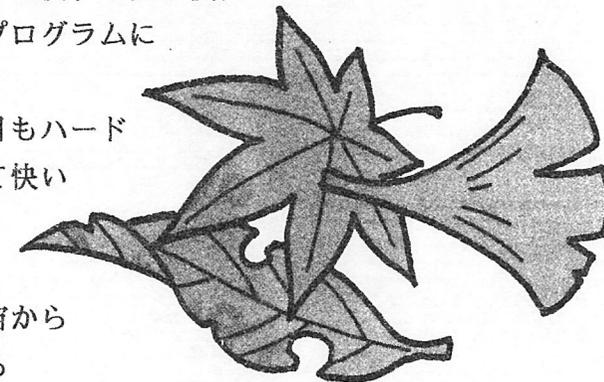
翌日は午前中、故宮博物院（紫禁城）見学。とにかく広いのにびっくり、皇帝の偉大さは想像もできない程でした。一日かけても見きれないような所を3時間程で見ようっていうんだから、ほんのさわり程度駆け足で見て回ってホテルに戻り、着物に着替えて歓迎レセプションに出席。会場は、20年前に日中国交の調印がなされたという

人民大会堂。レセプションの後、せっかく着物を着たのだからと、天安門広場を一回り。着物を着た10人の美女（???）にたちまち人垣ができて、しばしスターになった気分パチパチ写真を撮って、再びホテルに戻って元のジーンズ姿に衣替え。次の見学地、「いわ園」へ。その昔、皇帝が月見を楽しんだというすばらしい庭園でした。夕食後に翌日のコンサート会場を下見し最後の打ち合せという結構ハードな一日でした

三日目、いよいよ今回の第一目的のコンサート当日。着物を着て会場の龍馬銅飯店（リョウマガイホテル）へ。リハーサルの後、2回公演。

日本の民謡や中国の曲も折り込んだプログラムに皆さん熱心に聴いて下さいました。

ホテルに戻ったのは9時すぎ、この日もハードだったけど、コンサートもうまくいって快い疲労感のうちにバタンキュー。



四日目は待望の万里の長城見学。宇宙から見える地球上の唯一の建造物と言われる万里の長城・・・まさか自分の足で歩けるなんて思ってもいなかったことが実現できて感激でした。

息も絶え絶えに登りながら、すごいものを造ったものだなあと人間の力の偉大さに感心しました。

翌五日目はもう帰る日。天壇公園を見学した後空港へ。ここでは日本の箏の原点ともいう琴も展示してあって興味深く見てきました。

日常から離れた五日間、あっという間に過ぎてしまいましたが、一度自分が行った所というのは国内であれ、外国であれ関心が増すものだと思います。新聞やテレビの話題にも知らず知らず、その地名を見付けるようになり、それがまた自分の世界を広げることに繋がっているようです。

特にこの度の天皇、皇后両陛下のご訪中では、つい一か月前に見た北京の街、人民大会堂、天安門広場、万里の長城・・・などがまたテレビの画面で見ることができ、あの感激をもう一度思い起こすことができました。

以上 ユッコの初めての北京 報告 でした。

邦楽アンサンブル彩コンサート 「光彩Ⅱ きらめいて今」

こんなタイトルで、10月18日、香芝市ふたかみ文化センターで「彩」のコンサートをしました。

このところ「彩」の専属司会者（「彩」が勝手に決めている）となっている平真知子さんの司会で幕開けです。今年はまだ、力強いスタッフに恵まれ、メイクから衣装までスタイリスト付きというぜいたくさ。アートフラワーをやっているお友達はおおきなバラで舞台を飾ってください、私達はただ演奏だけに没頭することができました。

こうして音楽を通じて友達の輪が広がり、お互いが楽しみながら一つの形になる・・・それぞれがアイデアを出しあって来年はどんな風にしようかともうはるか先をみている者ばかりです。

会場のお客さまも、邦楽界以外の方が多く、アンケートの声からも確実に「彩」のファンが増えてるなって手ごたえありで単純なメンバー一同大喜び。

乗りに乗ってる「アンサンブル彩」です。

さてここですてきな仲間、平真知子さんを紹介するのにちょうどいいものがありましたので載せてみました。

以前アストロラマに障害児楽園村のスタッフ体験記を書いて下さった佐藤勇吉さんの勤める天理高校で「国語表現」の特別講座として、真知子さんの「パネルシアター」が取り上げられました。その授業を受けた生徒たちの感想文です。

《A子さん》 真知子さんと出会ってよかったです。真知子さんをみていると、とても張り合いがあって今を自分のものにされていて、イキイキして自分の目にきれいに映されていました。

《B子さん》 平さんが前で話をし始めた時、本当に輝いてると思いました。今まで「輝いている人」というのはよく耳にしたけど実感したことがなかったので少しびっくりしました。

《C男君》 平さんの語りは、妙になつかしい感じで、疲れきった心にうるおいをあたえてくれました。この日はムシャクシャしてやる気がなかったけど本当によかった。平さんみたいな人は会ったことがなかったから、すごく新鮮味があった。

授業のなかで、「花さき山」「わたし」「月夜の怪獣」などをパネルシアターで演じた真知子さん、出し物に感動したのはもちろんのこと、真知子さんの生き方に感動した高校生たちの声でした。 つい紹介したくなるお友達の一人数です。

チェコスロバキアの民話「白いお姫さま」を翻訳して日本語版を出版された中村裕子さんからの便り・・・

「夢がようやく叶い、スロバキアの画家、ミロスラブ ツィパールご夫妻をお招きして個展を開くことになりました。アストロラマの皆様にお伝え頂ければ幸いです。」

ということです。裕子さんの「白いお姫さまを訪ねて」の本を読ませていただき、裕子さんとツィパールさんとの出会いなど劇的なものを感じ、この度のニュースに裕子さんがどんなにお喜びかとうれしい気持ちです。

地理的には随分遠いスロバキアですが、裕子さんや美保さん（ポーベル君のことなど）のお陰でとっても身近かに感じられます。

この期間に皆様もスロバキアに一步近づいてみませんか？

スロバキアの画家

ミロスラブ ツィパールご夫妻を迎えて

11/1(日)～11/15(日) ツィパール展 於 アセス美術
大阪心斎橋 丸善アセス書局5F ☎ 243-0155(直)

11/1・・・オープニングパーティー

11/1～11/3・・・サイン会 ご夫妻会場に、12:00～8:00pm 入場無料

11/1(日)～11/30(金) 箕面中央図書館 作品展示 図書館横
9/11～11/15 いわさき ちひろ 美術館 東京
神戸 丸善 予定

後援 関西チェコスロバキア協会

世話人 中村裕子

(06-831-2473)

さて 最後に、今年もまたヤマギシズム顕示博覧会が11月3日～23日まで三重県津市にある「ヤマギシズム生活豊里実顕地」で開催されます。

体験したり、観たり、味わったり・・・五感をとおしてこれからの社会、地球の未来自分の生き方、暮らし方など考えてみませんか？

顕示博覧会のチラシを同封しました。何事も最初の一步から・・・

まず 一步踏みだしてみませんか？



アストロラマ No. 82



発行者 桑原由紀子 生駒市上町9-12 ☎07437-8-1969
1993. 2. 15

81号を出してから、早くも3ヶ月あまりが過ぎてしまいました。この間に年も変わり、りえ・貴の婚約、破局、皇太子さま・雅子さんの婚約、元みどり館館長、浅井義人さん事故死のニュース・・・と、いいこと悲しいこと、いっぱい飛び込んできました。



中でも、館長さんのことは、今だに信じられないことです。悲しくて淋しいです。

私自身も、この間に離婚、新生活の始まり、とまるでドラマのような展開です。

そんなこんなで、**阪本啓予**さんからののお便りを載せるのがこんなに遅くなってしまっでごめんなさい。

ではまず、阪本さんのお便りから・・・

(12月18日にいただいたものです。)



本当に久しぶりにお便りさせていただくのに、とても悲しいことをお知らせしなければならぬことが、残念でなりません。連絡のとれる元コンパニオン仲間には、ご存知の方も多いと思いますが、去る11月20日、午前11時42分、私たちの心の父であった浅井館長が、ご逝去されました。

交通事故という不慮の出来事で、享年80才でした。

何しろ急なことで、連絡のとれる範囲で、お通夜、ご葬儀と参列させていただき、『EXPO'70 みどり館コンパニオン一同』で、ご霊前に供花と弔電をさせていただきました。その後、連絡がとれ、私の許に皆様のご香料が振込まれております。

きちんとした会計報告は 又 個人にさせていただきますが、残ったご香料を基金として、来年の1周忌頃をめやすとして、『浅井館長追悼文集』的なものを作ってはどうかと、現在考えております。

なにか他に良いアイデアがあれば、阪本までご連絡いただければ幸いに存じます。これを機会に、あちこちにちらばった『アストロラマ』仲間と連絡が蜜にとれれば、きっと浅井館長もお喜びになると思います。

もっと早く『アストロラマ』に報告しなければと思いながら、悲しいことだけに筆がすすまず、ご報告が遅くなってしまったことを心よりお詫び致します。

まず、『浅井館長を偲ぶ会』と『追悼文集』なるものの準備会をかねて、新春早々に一度 関西にいる『アストロラマ』仲間を中心に集まりを持ちたいと思います。

阪本啓予



と、いうことで、1月27日、関西在住の「アストロラマ」仲間で準備会がもたれたのですが、私の方残念ながら仕事の都合で出席できませんでした。

重ねてごめんなさい。 阪本さん、いろいろと有難うございました。

会計報告

	摘要	収入	支出	残高
92. 9. 1	繰越			2,030
"	コピー代		1,800	230
"	送料		8,280	▲8,050
8. 29	カンパ	3,000		▲5,050
9. 3	カンパ (浅井館長さんより)	10,000		4,950
10. 21	カンパ	2,000		6,950
10. 27	コピー代		1,250	5,700
"	送料		7,192	▲1,492
12. 13	カンパ	10,000		8,508
93. 1. 12	カンパ	3,000		11,508
2. 9	カンパ (切手62円×50枚)			



皆様、たくさんのカンパを有難うございました。浅井館長さんには、いつもやさしい励ましのことばをかけて下さっていたのに、本当に残念です。

ご冥福をお祈りします。 合掌

さて、ここで私の近況報告 デス。



友人に電話をすると、たいてい返ってくるのが、

「年賀状も来ないし、何かあったの？ 電話をかけるのもどうかと思って・・・心配してたのヨ。

元気そうね、良かったあ」

こんなに気にかけてくれてるんだナーって、嬉しくなってしまう。

平成5年は、私にとって再出発の年となりました。

新しい暮らしは、沙代子と私、それにドイツからの留学生の若いカップルとの同居で始まりました。このカップル、5月には赤ちゃんも誕生ということで、私も沙代子もとっても楽しみにしています。

言葉もよくわからない人達との同居は、どうなることかと少し不安もありましたが、とてもステキな二人で、何のトラブルもなく楽しい毎日です。

彼らを紹介してくれたのが、いまは静岡に帰っている青木千里さん。

千里さんはバルサムを通じて、バルサムは杉原美保子さんの紹介で、美保さんは、宮脇ゆきえさんが企画して下さった講演会がご縁で、宮脇さんとは、'87に行なわれた「17年ぶりの万博同窓会」で一緒に準備委員にかかわったことで、おつきあいが始まり、今に至っています。

あの感激の同窓会では、みんなが「人と人の結びつきを大切にする万国博の心の遺産を継いでいきたい」という思いで、いっぱいでした。

いま、見たこともない国の人と同じ屋根の下で暮らしている・・・出会いの不思議さ、縁（えにし）の不思議さを思っています。

「ヤマギシズム奈良供給所」の仕事もマイペースでやれるようになり、「彩」の活動、PTAの仕事と全部今迄どおりこなしている自分に、我ながら驚いている次第です。

毎日、毎日 精一杯 生きているって感じで、悩んでる暇も、泣いてる暇もない状態です。

こうして何とか、自分なりに生きていけるのも、「アストロラマ」読者の励ましをはじめ、お琴仲間、学校仲間、仕事仲間にも恵まれ、みんなの暖かい気持ちに支えられているからと感謝しています。

これからも 暖かく見守っていただければ幸いです。

くわはら ゆきこ



「アストロラマ」への提案

EXPO'70みどり館仲間から始まったこの「アストロラマ」ですが、10数年経ったいま、みどり館の枠がなくなって、誰のものでもない「アストロラマ」になってきました。というか書きたい人の「アストロラマ」・・・いまのところ書きたい人というのは私だけ、ときどき秋山さん というわけで、当然のなりゆきとして内容は片寄ってきています。

そこで、元みどり館の読者の中には、こういう内容では、「アストロラマ」の名を使ってほしくないという提案が出ています。

私としては、「アストロラマ」はずっと使いたいし、どんな内容にするのも、読んでる人次第だと思っているのですが、いかがでしょうか？

貴方の投稿で、貴方の作りたい「アストロラマ」にしていきませんか？

私は、ときおり昔のアストロラマを読み返したりするのですが、いろんな出来事がつい昨日のこのように思えてなかなか楽しいひとときで時間のたつのを忘れてしまいます。自分が書いているからよけいにそう思うのかもしれない。

はじめの頃、3班のみんなが次々に楽しいお便りを届けてくれて、5班が入り、4班が加わってとどんどん増えていき読者は増えていくのに、お便りは減っていくという、私にとっては苦しい状態になってきました。

そんなとき、わたしはお便りが来ないことを悩むより

アストロラマを出すこと自体を楽しもうという考え方に知らず知らず転換していったのだと思います。

みんなと一緒に作っていきたい気持ちに変わりはありませんので、いろんな意見や提案出していきませんか？

みどり館のみなさんの「アストロラマ」への 熱い思い、誰にもじゃまされたくない青春の思い出なのでしょうね。

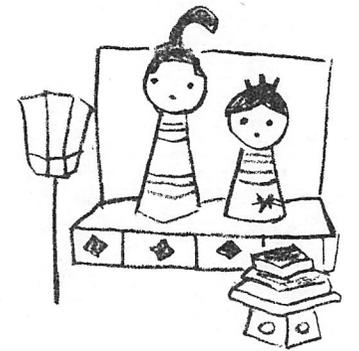
私にとってはこんなすてきな思い出、みんなにふりまきたい思い出なのですが・・・

またまた好き勝手なことをいっぱい書いてしまいました。

気にさわったかた、「またいつものこと」と、海のような広～い心でお許し下さい。

では皆様からのお便り待ってます。

冬眠からさめたユッコより





ア ス ト ロ ラ マ No. 83



発行者 桑原由紀子 生駒市上町9-12

☎07437-8-1969

1993. 6. 1

ゴールデンウィークも終わり、五月病という言葉が
きかれるこの頃、皆様にはお変わりないでしょうか？

というよりは皆様の方がわたしたち親子のことを
心配して下さいているのでは・・・と思いながら
83号を書いています。

前号を出したあとは、あちこちから電話が殺到(?)
するやらお手紙をいただくやら・・・アストロラマ
を出して以来こんなに沢山の反響があったのは初めて
でした。アストロラマへの提案については一言も
ありませんでしたが。

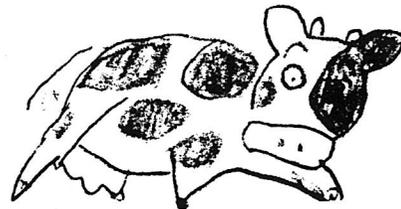
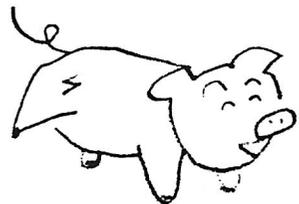
とにかく皆様からの暖かい励まし有難うございました。声をかけて下さった方、そっと
しておいて下さった方、それぞれの愛を感じております。



ヤマギシのタダのまつり

今年もヤマギシズムタダのまつりが、5月3日に三重県伊賀町春日山の丘で開かれまし
た。宇宙自然界が一切の見返りを求めない一方的な贈り合いだけで成り立っているように
「タダ」の心が満ち満ちた社会・・・そんな社会になったらいいなあと思える私も
沙代子と一緒にに行ってきました。

だれが主催者ということもなく、来た人、その場に居合わせた人同志でまつりを
作り上げていきます。



家の近くからバスで参加、同じバスに乗りあわせた人たちのお世話係としても一役
させていただきました。沙代子もバスの中でおまつりマップを配ったり、目印のリボンを
手渡したり嬉々として一役をやっていました。

それを見た別のこどもが「わたしも何かやりたーい」と言ってきたり、バスの中から
もうおまつり会場です。

さて会場に入ってから、ポップコーン手渡し隊、
マリーゴールド手渡し隊などやって渡す方を
楽しんだり、もらう方にまわってタダのおにぎりや
わた菓子をおいしく味わったりと、目いっぱい楽しんで
いました。

お金が介在しないというのは、人の心をやさしく
するのか、物語に出てくる「おとぎの国」へきたような
やすらぎを覚えた一日でした。

こんな村を作っているヤマギシの人たちに囲まれての
供給所勤めもやがて1年になろうとしています。

18年ぶりに家庭から外に出て、自分ではたらく生活、はじめはどうなる事かと
不安だらけでしたが、ボスもヒラもなく「仲良しが資本」のテーマ通り、皆とても
仲良しで、自分のやれる事を楽しくやらせてもらってます。



「邦楽アンサンブル彩」も5月30日にコンサート“初夏を彩る”を開催、
6月13日には京都にて演奏、10月には「光彩Ⅲ」を予定して、頑張っています。

会計報告

日付	摘要	収入	支出	残高
93. 2. 15	繰越			11, 508
"	送料		3, 720	7, 788
3. 6	カンパ	3, 000		10, 788
3. 18	カンパ	10, 000		20, 788

たくさんのカンパ、有難うございました。

沙代子、赤ちゃんに大喜び！



我が家に同居しているドイツからの留学生、ペーター、アンネッテ夫妻に、5月12日かわいい男の子が誕生しました。

彼らがきてやがて半年、なんのトラブルもなく、それどころかいろんな楽しみがあつてとても喜んでいきます。

「海外で安心して赤ちゃんを産む本」・・・先日 新聞にこんな本が出版されたという記事がでていましたが、こんな記事が目止まったのも、身近かにお腹の大きなアンネッテを見ていたせいかもしれません。

昨年の暮れ、5か月のお腹で日本に来たとき、彼らはさっそく沢山の質問を用意してあちこちの病院をたづねてまわりました。がどこも自分たちの希望に合わず、最後に私が沙代子を出産した助産院を紹介したところ、少々遠いのも気にせず、そこに決めてしまいました。

初めてのお産というのは、自国でも不安なものなのに、言葉もわからないところでおかつ気にいるところを根気よく探していく。

まわりの条件はどうであれ、自分たちはどうしたいかを はっきり出していってよりハッピーに生きていこうとする彼らに私自身励まされる思いです。

出産のあとで彼らは、「とてもいい助産院を紹介してくれて有難う」って言ってくれましたが、私にすれば、そこを選んで決めた彼ら自身に拍手を送りたい気持ちでした

アンネッテの出産を機会にドイツからペーターのお母さんと弟が来日、3週間一緒に過ごしました。

遠い日本に来て、全身で新妻を守っているペーターもすばらしいけど、彼を育てたお母さんがまたとてもステキな方で、私はまたいっぺんに大好きになってしまいました。

カタコトの英語で暮らしをともにするなかで、現実の厳しさも忘れ、「ドイツへ行きたい夢」がどんどんふくらみ、お母さんが帰る時には、「沙代子と一緒にきっと行きます」なんて言ってしまいました。

どうか、夢が叶いますように・・・。

美保さんから楽しい提案

「あなたの家、お部屋が空いてたら、関西方面へ旅行する方に安くお宿を貸してあげない？」

ある朝、とつぜんこんなお電話をいただいて、驚いたもののすぐにこれは楽しくなりそうだなって思いました。できるだけ安上がりの旅を楽しみたい外国の方にとっても居乍らにしていろいろなお友達の輪を広げたい私にとってもこれはグッドアイデアです。

一泊一人なら2,000円、二人なら3,000 (食事はなし、時間により送迎有)
どうぞ活用してください。

みどり館 関西の親睦会の報告

去る5月19日、今川道子さん(山崎)、末松具子さん(中島)のお世話で、みどり館関西の親睦会が京都全日空ホテルで開かれました。今までなら一番に参加させてもらってた私も、生活の激変(?)で行くことができませんでした。そこで末松さんに電話取材となったのですが、当日はなんと16名の方々が来て下さったそうです。

まず遠路東京から岡本恵子さん(岡村)、
23年ぶりに初めて参加という勝田史主代さん(三宅)、
奈良からは笹井真理子さん(米沢)、林恵子さん(江川)、
神戸から宮元美智子さん(高木)、
あと大阪府下の方々阪本啓予さん(安部)、寺岡千秋さん(中野)
岩崎ミチ子さん(貝掛)、片上則子さん(竹口)
熊谷安重さん(下村)、藤村容子さん(高谷)、
田中照美さん(浅井)、渡瀬厚子さん(犀川)、
少し遅れて宮島尚子さん(高見)、そして末松さん、今川さんの合計16名。

お世話係の顔がきいたのか、豪華なフランス料理のフルコースを格安でいただけましたそうです。久々になつかしい方に会っておしゃべりがはずんでるのが目に見えるようですね

東京では5月28日に皆さん集まられたとか、楽しいニュース、また聞かせて下さいね

なお関西では、年2回位こんな集まりを持ちたいと、次回は
11月10日(水)に予定しています。

お世話して下さるのは、末松具子さん、(0726-26-6784)
阪本啓予さん、(06-393-2392)
藤村容子さん、(06-876-1258)
田中照美さん、(06-878-2512)です。

皆さん、お住まいが近くだそうで相談するのも早いからと言って下さってます。

次回親睦会のアイデア、行ってみたい所、ぜひみんなに紹介したいところ、やってみたいことなどなど・・・ありましたら上記のみなさんのどなたかにお知らせ下さい。いろんな企画をし、いろんな方の参加を楽しみにしております。

ということで今回はおしまい。 いつ発行かわからない次号をお楽しみに！



アストロラマ No. 84



発行者 桑原由紀子 600-01
生駒市上町9-12

☎07437-8-1969
1993. 8. 1

こども達の夏休みも始まり、暑さも本格的となってきましたね。

衆議院解散、総選挙、政権はだれの手に・・・となにやら日本中が大ゆれ。政治などほとんどわからない私も毎日、新聞を一生懸命読んでいるこの頃です。

大ゆれといえば、北海道の地震もすごいですね。島原の火山にしても今回の地震にしても、自然の猛威のまえには、なす術もないものだと思います。

いろんなニュースが飛び込む中、平和に平凡に暮らしている現状に改めて感謝の気持ちがかかります。



ペーター一家、天理高校へ

私の友達であり、天理高校の先生でもある佐藤勇吉さんはとてもユニークな授業を展開されています。

これまで大窪興亜さんの「アジアの子の写真展」を見ながらの特別講座、平真知子さんのパネルシアターによる国語表現の授業、卒業していく生徒達を琴の音色で送り出したいとアンサンブル彩演奏による邦楽観賞など、だれもやらなかった授業を試みて、その度に教え子とともにすばらしい感動を味わっていらっやいます。

その勇吉先生、83号の「沙代子、赤ちゃんに大喜び」の記事を読んでひらめいたのがペーター一家を招いて国際交流の授業をしようということでした。

さっそく家にきてペーターに会って交渉成立。ペーターも「それはおもしろそうですね」と二つ返事でOK。7月3日(土)に実現となりました。

ペーター、アンネッテ、そして生後約2か月のズイーモン君と一緒に天理高校へ、34名のこども達に迎えられて教室に入りました。

生徒達にとっても初めての体験、はじめは恥ずかしがっていたみんなも、まあくなつてペーターの話の聞いたり、赤ちゃんをあやしたり、ゲームをしたりするうちにだんだん打ち解けて、なごやかな雰囲気の中で生徒と一緒に給食。

こんな体験したいと思ってもなかなかできるものでもなく、ペーターにとっても、勇吉先生のクラスの子供達にとっても、共に心に残る2時間だったことと思います。

ドイツへ行ってみたいとなった子、二人の子育てに興味をもった子、いままで思ってもみなかった国がとっても身近かに思えるようになったのではないのでしょうか。

外国のかたとの初めての出会いを、楽しく印象深いものにしたいと色々考えてくださった勇吉先生、こんなステキな先生に出会えた子供たち、幸せだなと思いました。

ペーター、アンネッテは、どんな時でもズイーモン君のことを考えて、思ったことや希望することはどんどん言葉に出していきます。遠慮、気兼ねというのは日本独特の気の回し方だと思いますが、たいていはこれによってうわべの付き合いしかできないというか、本音がいえない間柄になっているのではないのでしょうか。

本当の仲良しを目指すヤマギシの村人に囲まれて、また日々、ペーターやアンネッテに影響されてそんなことも考えるこの頃です。

こうして彼らと同居したことで、いろんな発見を楽しんでいる私ですが、元住友児童館の中村裕子さん・・・「白いお姫さま」を翻訳出版されたことを皆様もご記憶のことと思います・・・彼女もまたすばらしい体験をされたようです。日経新聞に載ったコピーを送って下さったのでここでご紹介したいと思います。

スロバキアの画家招く



中村裕子

スロバキアは今年1月1日にチェコから独立した。

そのスロバキアの画家であるミロスラフ・ツイパール氏と初めて出会ったのは民主化革命の直後だった。革命のリーダーでもあった彼の描いたスロバキアの民話「白いお姫様」の渋い中間色で民族色豊かな挿絵に魅せられ、友人たちと9年がかりで翻訳、出版にこぎ付けた。

その後、ツイパール氏の個展をいつか日本で開きたいという夢をずっと抱いていた。

たまたま昨年の秋に、「チェコスロバキアのイラストレーション展」を東京の「いわさきちひろ美術館」で開催することを知り、彼の作品も展示されるというので、この機会にぜひ絵本の原画展を関西でも開きたいと思い立った。

スポンサーもない友情個展であったが「やればできないことはない」とみんなであちこち会場探しをした。やっと大阪と神戸の書店のギャラリーを会場にすることができた。渡航費は友人達の協力を得てバザーで賄い、滞在はホームステイ、講演会で小旅行費用をだし、ご夫妻を京都、奈良、東京へもお連れすることができた。

もちろん3人部屋で布団の上げ下ろしも自分でするような民宿を利用したが、かえって喜んでくれた。2週間ほどの短い滞在だったが「これは日本とスロバキアとの架け橋だ」と帰国されてから、スロバキアの新聞、雑誌に「画家から見た日本」という題名で日本の印象を発表された。

ツイパール氏は数々の賞を受賞している芸術家であるが、人柄は親しみやすく、作品はその色彩のハーモニーとともに人の心を和ませる。

夫人も国際婦人会の委員としてチャリティー活動をしているので、私達も協力して今年の秋には在日のスロバキアのオペラ歌手を招いて、千里でチャリティーコンサートを開く予定である。

今では、スロバキアは私達にとって、まるで親戚が住んでいるような身近かな国に思われる。

~~~~~

中村裕子さんのお嬢様がパリから一時帰国とか、ボーイフレンドがイギリスから来日とか、末松美香ちゃんがアメリカ、オレゴン州に留学とか、

我が家でも、いまペーターの従兄が来日、その後アンネッテのお母さんと弟が来日、3週間滞在・・・とこのところアストロラマも国際色豊かな話題が多くなってきましたねこの先どんな展開になることやら・・・ワクワクしてきます。

最後に美保さんから、まるで私を勇気づけてくださるようなすばらしい詩が届きましたご存知の方も多いと思いますが、私ははじめの部分しか知らなかったのです。それもいつだったか三重県の大窪興亜さんが、美保さんや西宮さんに会った時、この詩が頭に浮かんだってアストロラマに書いて下さったことがありましたが、それでその冒頭の部分が頭の角に残っていたのです。

そう サミュエル・ウルマンの“青春”です。

## 青春

サミュエル・ウルマン  
杉原 美保子 訳詞

青春とは人生のある期間をいうのではない。  
心の持ちかたをいうのだ。  
ばら色の頬や赤い唇、しなやかな手足ではなくて  
強い意志、ゆたかな想像力、もえるような情熱のことだ。  
人生の深い泉の新鮮さをいうのだ。

青春とは臆病にならない勇氣、  
安易にすまさない冒険心だ。  
二十歳の青年よりも六十歳の人にしばしば青春がある。  
年を重ねたからといって人は老いるものではない。

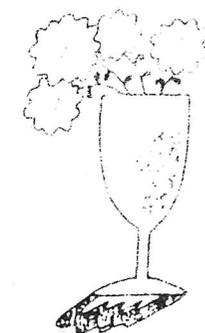
理想を失ったときに初めて老いる。

歳月は肌にシワを増すだろう、  
しかし情熱をなくすと心にシワができる。  
くよくよ悩んだり、恐れたり、自信をなくすと  
心は衰え魂はゴミに変わってしまう。

六十歳であろうと十六歳であろうと人の胸には  
驚きへの魅力、子どものように止むことのない探求心、  
人生というゲームを楽しむ歓喜がある。  
君も私も心の中に無線局をもっている。  
それで人や神から美、希望、喜び、勇氣、力の  
メッセージを受信するのだ。  
それが続く限り、君は若い。

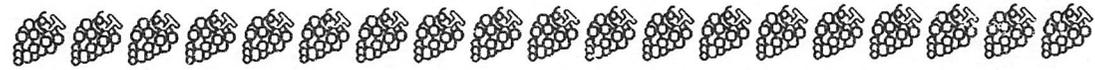
大空に張ったアンテナが倒れ、魂が冷笑の雪におおわれ、  
悲観の氷に閉ざされたとき、  
二十歳であろうと、人は老いてしまう。  
しかしアンテナを高く張って楽観の波動をとらえる限り、  
八十歳であろうと希望にみちて青春のままでこの世を去るだろう。

いつまでも青春しながら楽しく生きたいものですね。美保さん、ありがとう。  
では 次号をお楽しみに！！



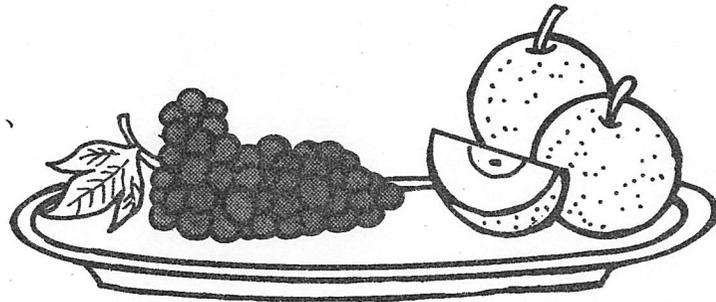


# ア ス ト ロ ラ マ NO. 85



発行者 桑原由紀子 630-01 生駒市上町9-12 ☎ 07437-8-1969  
1993. 10. 1

稔りの秋・・・とは  
言いがたいような不作のニュース、  
日々の暮らしを直撃する野菜の  
高値。自然のサイクルが狂うと  
いろんな所に影響がでるもの  
ですね。



とは言っても、毎日ヤマギシの肉、卵、牛乳、パン、野菜など、おいしくて安心できる  
生産物をいただき、仕事も趣味もおもいきりやってストレスのない毎日を送っている私は  
このところ、どんどん体重が増えて少々困り気味。

その他は相変わらず、一日一日があっという間に過ぎていく毎日です。

## サブリーナさんの来日・・・できたらいいな。

ペーター達との暮らしも残り少なくなってきました。このアストロラマにもつつい  
書いてしまいたくなるほど、沙代子と私にとってとても楽しく心に残る一年になりました

彼らが帰国したら寂しくなるなあなんて考えていたところへ  
元、ソ連館のコンパニオンだった木村嘉子さんから、同じ仕事をした万博仲間  
ロシアのサブリーナさんが日本に来たいというニュースが  
飛び込んできました。

関西方面で仕事が見つければ、ペーター達の後に住みたいとか・・・私にしても  
そんな方に住んでいただければ、文句なしに有り難いのですが。

仕事を見付けるのが難しそうです。

どこかで「ロシア語の先生求む」なんてニュースがあれば是非教えて下さいね。

## 「邦楽アンサンブル彩」コンサートのお知らせ

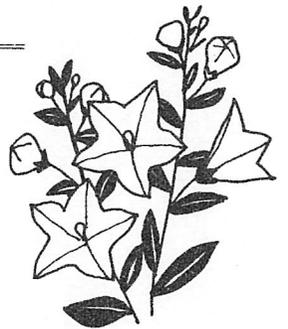
持つべきものは友達・・・ほんとにそう思える有り難い友、彩のメンバーの暖かい  
励ましのお陰でどうにか続けているお琴です。

仕事と練習で頭がパニックになることもあるけど、そこは切り替えの早いユッコさん  
というか欲張りユッコさん、目いっぱい仕事をやり、我を忘れてお琴を弾いて幸せだなあ  
と思っています。

とにかく仲良しメンバー4人からなる「邦楽アンサンブル彩」、今年もまた  
奈良県芸術祭参加のコンサート

## 光彩 III ～秋空にひびく～

を下記のとおり開催する運びとなりました。



### 記

とき : 10月16日(土)  
午後1時半開場、2時開演、3時半終演予定

ところ : 生駒市コミュニティセンター  
文化ホール  
(生駒セイセイビル 1階) (☎07437-3-0500) 駐車場なし

入場料 : 1,300円(前売券 1,000円)

### 曲目

楓の花 ・ さらし風手事 ・ 紫苑 ・ ポピュラー音楽  
いするぎ ・ 九州民謡による組曲

チケットの申し込みは桑原まで (07437-8-1969)

以上 「邦楽アンサンブル彩」の商業チャルでした。どうぞよろしく。

## 親子でハイキング

秋晴れの日曜日、沙代子と二人で浄瑠璃寺と岩船寺へハイキング。ふだんは仕事だ練習だ、コンサートだってなかなか子供の相手もできない日々（過干渉よりはいいと思っているが）を送っているので、たまには・・・と思って。

ガイドブックを頼りにのどかな当尾の里（とおののさと）を歩いてきました。

みどりの田んぼに真っ赤なまんじゅしゃげ、歴史を感じさせる野の石仏、お寺もコースも言うことなし。とってもステキなところでした。

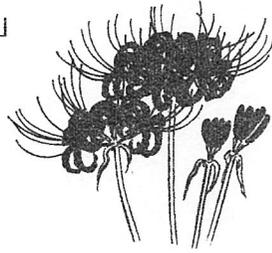
折しも美保さんから「歩こう会」を企画してほしいとのハガキ。

そこで今回は、もう一度皆さんと歩いてみたいと思い下記のとおり企画してみました。

### 記

#### 「美保さんと歩こう会」

とき：10月17日(日)  
 集合場所：近鉄奈良駅 噴水前  
 集合時間：午前10時30分  
 コース：浄瑠璃寺から岩船寺  
 持ち物：お弁当、お茶（自動販売機もあります）



歩きやすい道です。初めての方、毎度の方、美保さんに会いたい方、しゃべりたい方、歩きたい方出掛けてみませんか？  
 貴方が作る楽しい一日、行かないことには始まらない。皆さんの参加を待っています。

問い合わせ、参加連絡は桑原まで。9時半～4時半までは 07435-6-0118(奈良供給所)  
 それ以外は 07437-8-1969(鮎)

### 会計報告

|          | 摘要            | 収入        | 支出    | 残高     |
|----------|---------------|-----------|-------|--------|
| 93. 6. 1 | 送料            | 繰越 20,788 | 7,316 | 13,472 |
| 6. 21    | カンパ           | 2,000     |       | 15,472 |
| 6. 29    | カンパ(切手820円)   |           |       |        |
| 8. 9     | 送料            |           | 7,316 | 8,156  |
| 8. 10    | カンパ           | 5,000     |       | 13,156 |
| 8. 19    | カンパ(切手1,240円) |           |       |        |
| 9. 16    | カンパ           | 1,000     |       | 14,156 |

環境に優しい生活は、ひとつの流行とさえなっています。しかし、その中身はもうひとつはつきりしません。私たちの生活が長い間に自然から大きく離れてしまっているからです。毎日食べているものでさへ、半分以上が日本の外から輸入されているほどで、その中に何が入っているかほとんどわからない状態です。若い人達の間にも広がる原因不明の病気、将来への漠然とした不安感から闇雲に目前の利益に走る、それらがますます、社会的な不安感を増大させていく……といった悪循環が生まれています。こうした地球の状態を一気に解決していくことはできるでしょうか……。

私の限られた見聞から判断して、ヤマギシはその機会のひとつと考えてよいようです。  
 私自身も去る九月にヤマギシズム生活豊里実顕地を訪問し、「自然と人為の調和」を基調とした社会造りの実態に触れることができ、そこに地球を救う糸口と可能性を感じました。そこは固定したひとつの教義に基づく宗教団体ではなく、長年にわたる実体験を蓄積した、絶えず変化を重ねてきた生きた集団であり、最新の科学的知見も取り入れ、未来に開かれた活動をしているようです。そして、体験を通じて、環境に優しい生活を実現しています。現段階ではまだ足りない点を指摘することもできるでしょうが、現実の変化して行く世界の中で、何も無いところから出発して、三〇数年間で現在の規模に至り、なおも豊富な人材と後継者が育ってやまぬ背景には、大きなヒントとなるものが隠されているようです。まずは、体験をお勧めします。

### ◎特別寄稿

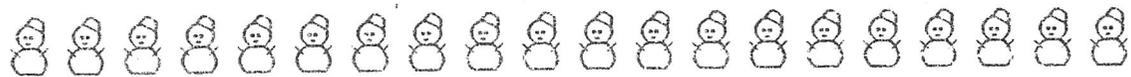
# 地球を救う 糸口と可能性

沖縄大学 地域研究所  
 宇井 純

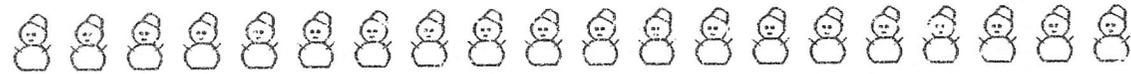


#### 宇井純さんプロフィール

1932年生。応用化学専攻/世界各地の公害事例を調査、廃水処理に携わる。  
 ●1972年/ストックホルムにて水銀汚染による水俣病の存在を世界に知らせ、国連人間環境会議に大きく影響を与えた。  
 ●1991年/国連環境本部より『グローバル500賞』を受ける。



## ア ス ト ロ ラ マ No. 86



発行者 桑原由紀子 630-01生駒市上町9-12 ☎07437-8-1969  
1994. 2. 1

皆様お久しぶりです。お変わりないですか？  
新しい年が明けたと思ったらもう2月！早いですね。  
皆様にとって新年の滑りだしはいかがでしょう？私のほうは  
今年はずこしお琴をセーブして、親業と仕事に精をだそう(?)  
と決心はしてみたものの、1月には御堂筋の大阪ガスビルで  
ランチタイムコンサート(ビジネス)、2月には奈良の  
障害児福祉センター「奈良仔鹿園」で子供のためのコンサート(ボランティア)  
4月には、兵庫県三木市の「県立三木山公園音楽ホール」でコンサートともう  
目いっぱい予定が決まっており、自分でもいったいどの辺をセーブしているのかと  
思っています。



お琴を通して新しい出会いがどんどん広がり、楽しみがつきないですね。  
アストロラマの皆様、今年もまた「邦楽アンサンブル彩」の話題によるしく  
お付き合い下さい。

さよならペーター、アンネッテ、ズイーモン君・・・

12月18日、とうとうペーター一家がドイツへ帰る日がやってきました。  
この1年、沙代子と二人暮らしになった矢先の彼らとの同居、心暖かい彼らにどんなに  
援けられたことか、本当に感謝々々の日々でした。

彼らとの暮らしの中でもまたたくさんの出会いがありました。  
ペーターのお母さん。弟。従兄。アンネッテのお母さん。弟。ペーターの学校の先生。  
クラスメート。合気道のお友達。・・・

そして一番忘れられない出会いは、何と言ってもズイーモン君。沙代子の時と同じ  
お産婆さんの手で、この世に誕生。感激もひとしおでした。

一人っ子の沙代子にとっても、本物の弟ができたようで毎日学校から帰ると真っ先に  
ズイーモン君のところに行っていました。それだけに、みんながドイツへ帰ってしまった  
後はさすがにシヨンボリ。ちょぴりかわいそうでした。

「会うは別れの始まり」来た時から帰る日が来るのはわかっているのに本当に淋しい  
かぎりです。

ま、こんなわけでまた二人暮らしにもどるのかと思いきや、ペーター達を空港へ  
送って行った日の夕方、次に部屋を借りたいと言う人が見に来て翌日入居という  
あわただしさ。

こんどの方はニュージーランドから来たJanさん。女性一人。彼女は英語とヨガを  
教えています。

### 「美保さんと歩こう会」の報告

ずいぶん間延びした報告になり、もう載せるのやめようかとも思ったのですが、  
美保さんとの一日を思い出すとやっぱり書きたくなったのでのせました。

そう、もうずいぶんと昔のこととなった昨年の「邦楽アンサンブル彩」のコンサートの  
翌日に企画した「美保さんと歩こう会」。いつものことながら、どんなメンバーで  
歩くことになるやら、当日その場になんか分からないといういい加減な会なのですが  
今回も美保さんのファンがあちこちからきて下さいました。

まず一度歩いてすっかり美保さんのファンになった私の母、それから前日コンサートで  
お手伝いをして下さった齊藤庸子さん。硬さん(美保さんのご主人)が新米  
教師だった頃の教え子だったという岡田信彦さん。万博仲間の  
末松具子さん。今西さん。内川敦子さん。  
それに私と沙代子の総勢9人。毎回のように参加して下さいました大窪さんご夫妻、  
西宮さんや神谷さん、またお会いできるかなと思っていたらお顔が見えずちヨッピー  
残念。皆さんお元気にしていらっしゃるかななんて話題になるほどこの歩こう会も  
回を重ねてきました。

コースは前以て沙代子と下見をしておいた浄瑠璃寺・岩船寺コース。先導はしっかり  
道を覚えていた沙代ちゃんです。のどかな当尾の里、赤く色づいた柿がそこここ。

だれかが「柿食べば鐘がなるなり法隆寺」ってロブさみ、さすが奈良は柿が多いね  
なんて言っていました。

歩く道筋にはまた、右に左に野菜やくだものを並べたお店（無人の店も）があり、行く途中から買物をしてみんなの荷物は重くなる一方です。

浄瑠璃寺に着いてお弁当を広げ一休み、その後岩船寺まで歩く途中でまた、枝付きの柿を買い込み、みんな歩いてへとへとより荷物の重さにへとへと。一番若くて元気な沙代ちゃんについて歩くのが息も絶え絶えって感じでした。

静かな岩船寺を見て帰りは石仏を見ながら木立の中を下って帰って来ました。

バス道にでた所でうまい具合にバスがきて奈良駅へ。

絵を画くのが好きな今西さんは見るものすべて

「絵にしたいなあ」

今回は一人で参加した齊藤さん

「また主人と一緒に歩きたいなあ」

いつもにぎやかなモグこと末松さんは

「まだ歩くの？あとののくらい？バスにのろうよ。」

沙代ちゃんもつとゆっくりあるいてよ……」

前夜はコンサートの打ち上げでおそくまで飲んでくれたくださった私もみんなに「素晴らしいコースを企画してくれて有難う」っていわれそんな疲れもふっとんで楽しい一日でした。

はじめて参加して下さった岡田さんは硬さんと雰囲気がよく似たすてきな方でした。歩くのが大好きだそうで、若い頃から歩きに歩いてもう地球を一周するくらい歩いたそうです。次回はぜひ奥様もご一緒にどうぞ。

会う度に「元気」を分けて下さる美保さん、本当に有難うございました。何事もはじめは気がついた「私」から。私から貴方へ。貴方からお友達へ。なんでもどんどん広げていって楽しい生き方したいですね。

ゆっこの「歩こう会」報告でした。

### 会計報告

| 摘要                 | 収入     | 支出     | 残高      |
|--------------------|--------|--------|---------|
| 93. 10. 1 繰越       |        |        | 14, 156 |
| ” 送料(85号)          |        | 7, 378 | 13, 778 |
| 10. 17 カンパ(切手620円) |        |        |         |
| 12. 19 カンパ         | 6, 000 |        | 19, 778 |
| ” ”                | 1, 000 |        | 20, 778 |

### 「私」について思うこと

いつだったか、平 真知子さんのパネルシアターで「わたし」という話を聞いたことがある。この「わたし」というのは、たとえば沙代ちゃんから見れば「お母さん」、お祖母ちゃんから見れば、「娘」、お友達から見れば「由紀子さん」そんなお話だった。が、単なる呼び方ではなくて、見る人の数だけ「私」がいるんだと思う。ある人から見た「私」は、『明るくて、何でも言いたいことを言って常に前向きでステキな人』

またある人の目には、『ちっとも素直じゃなくて自分の思いを外に出せなくてしんどそうな人』

どちらも間違いなく「私」。

最近出会ったすばらしいお友達に言われた言葉は、

「あなたの気持ちを相手に伝える【私メッセージ】をどんどん出さない」言われて気がついたことは、本当に私って自分を出していないんじゃないかなってこと。自分で意識していないだけにとってもわかりにくいけど、親子関係、夫婦関係においても思い当たることばかり。

たしかに人が言うように、何でもサラリと言ってあるがままに楽しく生きているように思っている自分がある反面、子供にも本心を見せないような、何を考えているのかまったくつかみどころのない自分もいる。

常にイヤな自分はできるだけ見ないようにしてきたのかも知れない。でも子供を通してみる自分ってイヤなところばかり見えてしまう。

で、言われたように今、子供に対してできるだけ【私メッセージ】を出す練習をしているところ。

今まで顔で笑って心で泣いて……みたいな素直じゃない私にとってこれはすごく難しい。一日やっただけでも子供の表情が変わった。

どんなにイヤなことがあっても、子供の前では明るくふるまっていた自分が、子供の目にはちっとも嬉しくなかったんだなってよくわかった。

子供の反応がすごく嬉しい。ときどき不安になっていた子供との関わりが楽しいものになってきた。

一日一日練習するのが楽しい。そんな気持ちを誰かに聞いてほしくてまた書いてしまいました。

いろんなことを教えてくれるお友達に有難う。そしていつも私の気持ちをだまって読んでくれるアストロラマ仲間にも有難う。

いつも暖かい私のまわりの人たちにどんどん【私メッセージ】を出していきたい。そして皆んなが私に対してだしてくれる【あなたメッセージ】をしつかり聞ける私になろう。いまこんなことを考えている私です。今年もどうぞよろしく。 おわり



# ア ス ト ロ ラ マ NO. 87



発行者 桑原由紀子 630-01生駒市上町9-12 ☎07437-8-1969  
1994. 4. 10

今年もまた 桜の季節になりました。年々早く感じられるのは、私だけでしょうか？  
進級、進学など春はやはり新しいことへのスタートの季節ですね。我が家の沙代子も早、4年生。随分いろんな面が育ってきたなと思います。

さて、4月24日(日)は「邦楽アンサンブル彩」のコンサート。今回はメンバーの黒一点、小山政夫さんの故郷である兵庫県三木市で下記のとおり開くことにしました。



## 記

|                                      |           |         |
|--------------------------------------|-----------|---------|
| 箏・尺八コンサート                            |           | ＜ゆく春に＞  |
| 後援                                   | 神戸新聞社     |         |
|                                      | NHK神戸放送局  |         |
| 主催                                   | 邦楽アンサンブル彩 |         |
| 加alam……六連星                           | 昭和松竹梅     | 哀歌      |
| 北海民謡調                                | さくら・荒城の月  | 雪月花によせて |
| 日時：1994年4月24日(日) 午後1:30開場・2:00開演     |           |         |
| 会場：兵庫県立三木山森林公園 音楽ホール (☎0794-83-6100) |           |         |

入場無料です。お近くの方会場でお会いできれば嬉しいです。

## ＜神様 仏様 ありがとう＞

いつもは神様なんて信じていない私ですが、このところ思わず「神様ありがとう」って言うってしまうような嬉しいことがありました。  
そんな私の話、聞いてほしくて書きました。

2月27日、お友達の愛子さんからの電話。  
愛子さんとの出会いはもう5、6年前になるかな？奈良の公報で英会話を勉強しているグループが紹介されていたのを見て、興味深々、出掛けて行きました。何回かレッスンを受ける内に何となく親しくなり、いろいろお話するようになりました。そうしたらなんと彼女も万博仲間だったのです。

そんなわけで愛子さんにもこのアストロラマを送るようになりました。そしていつしか私の方は、レッスンを休みがちになり、愛子さんと会うこともなく何年間か過ぎていました。

アストロラマを読み続けてくれた愛子さんからの電話は「お部屋空いてないかな？」  
驚いたのは私のほうでした。というのは翌2月28日にニュージーランドから来ていたJanさんが帰国する日だったからです。

わずかな家賃収入もあてにしている私にとっては、こんなにトントン拍子に次々と借り手が決まるなんて・・・嬉しくて思わず「神様ありがとう」ってなった次第です。

Janさんが出たその日に入居したのは、オーストラリアはメルボルンから来た、NeroliさんとKylieさん。21才と22才のすてきなお嬢さん達。

沙代子ともいいお友達になり、週末はたいてい一緒に食事を楽しみ、にぎやかに過ごしています。

二人はノヴァで英語を教えています。

ちょうど桜が満開の頃、Neroliさんの両親が来日。遠く離れた娘の心配をするのは、どこの親も同じ。ましてや、アメリカでは銃による事件が・・・

うちにホームステイしたことで、ひとりでも多くのひとが日本が大好きになってくれたらいいな・・・

国どうしの仲良しも、はじまりは人と人の仲良しから。いろんな国の人に会う度にこんなことを考えています。

美香ちゃんをアメリカに留学させてるモグこと末松さんも昨年、単身アメリカに行ってきたとか、また体験談を書いてほしいな。

## 《もうひとつの神様ありがとう》

ボランティアでやっている「生駒日本語学習会」も細々ながら3年位になるかな。この間、タイ・ノルウェー・フランス・ニュージーランド・ヨルダン・ドイツ・アメリカその他いろんな国の人たちとの出会いがありました。

仕事と趣味とで結構忙しいので、ほとんど欠席して名前だけのボランティアなのですがなんとそんな私のところへ昼間の時間に無料で教室を貸しましょうという電話がありまたまた感謝感激しているところです。

今は部屋を借りのお金もなくて、無料で使えるコミュニティーセンターのロビーを使ってやっている夕方5時半から7時のクラスだけだったのですが、ほとんどのボランティアが主婦ということで、この時間帯が一番出にくい時間なのです。

昼間ならなにかお手伝いしたいとか、日本語を学びたい方も昼間なら行けるのという声もあって昼のクラスも作りたいたいなんて思ってたところにこんな有り難い電話。本当にラッキーです。

このすばらしい提案を出して下さった方は、夜は塾で使っているが、昼間は空いているので、なにか役にたつことに使いたい・・・で、自分が外国に行った折り、いろんな国の方にいっぱい親切を受けてとても嬉しかった。そして今度はその嬉しかった思いをお返しに行きたい。右も左もわからない日本に来て困っている人達のお役に立ちたいという思いから私たち「日本語学習会」の皆さんと一緒に何かできたらということで声をかけて下さった次第です。

自分のやれるところで、自分を活かしてみたい。そんなステキな人達の輪も少しずつ広がってきています。

### 会計報告

|          |            | 収入     | 支出     | 残高      |
|----------|------------|--------|--------|---------|
| 94. 2. 1 | 繰越         |        |        | 20, 778 |
| 〃        | 送料(86号)    |        | 9, 440 | 11, 338 |
| 2・17     | カンパ        | 3, 000 |        | 14, 338 |
| 2・20     | 〃 (封筒代五千元) |        |        |         |

カンパを有難うございました。

## テレビ東京で「アストロラマ」を紹介

電話はいろんなところからかかってきます。

先日は「テレビ東京の者ですが・・・」とかかかってきてびっくり。何かと驚いたところ、1970年の万博に関する番組作りのために資料集めをしているそうで、以前と同様、神谷さんからの紹介でということでした。

神谷さんいわく、みんなステキな方ばかりなので全部紹介したかったのですが、そうもいかず何人が名前をだしておきました。そうアストロラマ読者のところにもインタビューがあったのではないのでしょうか？

私の方は、「アストロラマ」の話をしたところ、何部か読ませてほしいということで早速、数部送りました。

5月頃に、万博の特集番組ができるそうで、「アストロラマ」も番組の中で紹介していただけるそうです。楽しみです。

でも、テレビ東京って奈良でも見えるのかな？

## ご先祖さまのおかげ??

私の家というか実家では、このところ神様ご先祖さまの話で持ちきり・・・というのは赤ん坊の時に別れたきり行方のわからなかった母の従妹がなんと60年ぶりに見つかったのです。信心深い母など、これはご先祖様の引き合わせと大喜び。法事かねて田舎でいとこ会を開いたところ35人のいとこが集まったそうで、60年ぶりに再会を果たした従妹については、地元のアラブ新聞に大きな写真入りで、デカデカ報道され、それをみた友人、知人からの電話で大騒ぎ。

一口に60年といっても、私の生まれるずっと前のこと。中国残留孤児のニュースでも、あれだけ新聞やらテレビなどあらゆるマスコミを使って探しても見つからない人もいれば、ほんの偶然から奇跡のような再会をするひとまで、人の世の不思議を感じずにはられません。

やっぱりこれは、母の言うように本当にご先祖様のおかげなのかしらん??と半信半疑の私です。

先祖あつての私が存在している。他があつて私が活かされている。

忘れたくないですね。感謝のこころ。

では次号をお楽しみに。



## アストロラマ No. 88



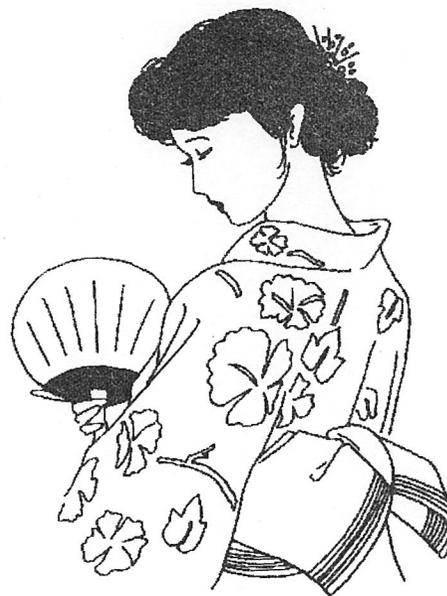
発行者 桑原由紀子 630-01  
生駒市上町9-12

☎07437-8-1969  
1994・8・1

地球の外からは、向井千秋さんの声、身近なところでは、水不足のため節水呼び掛けのマイクの声、夏休みが始まったというのに、学校のプールも市民プールも閉鎖です。

そして記録的な暑さの続く今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか？

久しぶりに何の予定もない日曜日。毎日バタバタと仕事に趣味に明け暮れているとこんな日曜日が何よりも嬉しく感じる。思い切り朝寝坊して・・・といっても7時ごろ、目がさめるのは年のせい？ それから1時間ほどのうつらうつら、ごろごろ・・・この時間がなんとも「しあわせだなあ」と感じる私は安上がりだなと思う。



めったにやらない冷蔵庫のそうじや部屋の掃除をしているうちに、目についたのが状差しからあふれそうになっている手紙の山。何となく見苦しい。

これも片付けなくちゃと、やりはじめたものの、血液型B型の特徴（ものの本に出た）丸出しで、あれをやってる内にこれをやりはじめ、また別のことが気になってそっちをやり、結局なにもかも中途半端。私は今日、何をやったんだろうってことになりかねないのですが・・・

そんな手紙をひとつひとつみつめていると、アストロラマ読者からの暖かいお便り、読みなおしてる内に88号を書きたくなった次第です。

## 《音楽のちから》

「すぺーす・はすのぞ」という通信を送ってくださる方がいる。名前は寛さん。

すこし前、奈良の教会で辻 幹雄さんのギターコンサートを聴いた。私達もあちこちでコンサートをやるので、曲はもちろんのこと、裏方の方まで気になって仕方がない。会場費はいくらぐらいかかるんだろうとか、客の入りはどうかとか。

辻 幹雄さんというギタリストを知って行ったわけではない。友達に誘われて教会という場所に興味があったのと、琴より2本、絃が少ない11絃ギターってどんなかなあと行って行った次第。

お客が少なかったのが良かったのか、とても贅沢なコンサートを聴いた気分になった。静かな教会に響くやわらかなギターの音色は、とても心洗われる気分でした。帰りには、CDを買って今だにあの教会の雰囲気を読み起している位です。

そんな時、先の「すぺーす・はすのぞ」が届き、「ギターのこと」と題して、この辻 幹雄さんのコンサートと、ギターにまつわる筆者のエピソードが書かれていて驚いた。

「すぺーす・はすのぞ」の筆者にはまだお会いしたことがない。が同じコンサートを別々の場所で聴き、それぞれの感動が紙面を通じて伝わってきて、なんだかすごく身近かに感じた。

音楽には不思議な力があるのか、いろんな病気や障害にも音楽療法がとりいれられている。聴くことも、楽器を演奏することも、何らかの効果がきっとあると思う。

わたし自身も悲しい時、嬉しい時、いろんな時、琴を弾いていると気持ちが柔らかくなった。なにもかも忘れて音の世界にひたることができた。それは私にとっては、ある意味では逃げ場だったかも知れないけど、幸せな時間を自分で作ることができた。

「すぺーす・はすのぞ」の筆者は、右手指の切断事故で大好きなギターが弾けなくなるという悲しい状況のなかで、あえて「はすのぞの瞑想室」という場所を会場にギターコンサートを企画されて、その辻さんのすばらしい音色に励まされ、再びギターを弾いてみたいと思うようになった。そして恐る恐る弾いてみると、痛かった指からふしぎと痛みが去り、またギターを弾ける喜びを味わえるようになったと嬉しさあふれる文が綴られていた。

喜びの文章に出会うとこちらまで嬉しくなります。

おめでとう、寛さん！

「邦楽アンサンブル彩」もなにか響き合うものを感じたいと練習に励んでいます。

## 《さよならカイリ、ネロリ》

3月から一緒に住んでいるネロリとカイリ。楽しい時間はあっという間に過ぎて、7月初めにカイリは仙台へ引っ越し、ネロリも8月15日にロンドンに向けて出発することになりました。

21, 2歳にして人生を目いっぱい楽しんでいる彼女達をみて、劣等感の固まりだった自分自身の20才頃を思い出しています。そんな私も今では、成長したというより、開き直ったと言った方があたっているかも・・・劣等感なるものどこかに落としてきたみたいに、人生楽しいなと思えるようになってきました。

外国に飛び出す夢もまだまだ持ち続けているし、もっとももっとたくさんの人に会って語り合いたい、知らない世界を見てみたいとワクワクしています。

先日も、オーストラリアから旅行に来た人たちが3日ほど家に泊り、暑いなか京都や奈良をみて回りました。カイリが行って寂しがってたネロリも、久しぶりに同じ国の人に会って大喜び。

ホテルに泊まって観光地をみてまわる観光旅行とは一味違う日本を味わってほしいと夜は私の大好きな日本のお友達も呼んでいろんな話題にはなが咲きます。

人と人との懸け橋、国と国とのかけはしになりたい。私の大好きな杉原美保子さんや青木千里さんのように・・・。

8月にはペーターが仕事で来日。何だか夏休みに帰省する子供を待ってる親みたいな心境です。ロンドンに行くネロリはドイツにもあしをのぼして、同じ部屋で過ごしたペーター一家を訪ねようと計画したり。奈良がみんなのふるさとになればいいな。

ドイツへ行く夢もまだ叶っていないのに、今度はオーストラリアへ行きたい夢もどんどんふくれています。

神様、わたしの夢が全部叶いますように！！

### 会計報告

|         | 摘要      | 収入    | 支出    | 残高     |
|---------|---------|-------|-------|--------|
| 94・4・18 | 繰越      |       |       | 14,338 |
| "       | 送料(87号) |       | 9,440 | 4,898  |
|         | カンパ     | 1,000 |       | 5,898  |
|         | "       | 2,000 |       | 7,898  |
| 5・25    | "       | 3,000 |       | 10,898 |
| 6・20    | "       | 4,000 |       | 14,898 |

## 《最近読んだ本》

「マディソン郡の橋」・・・ずいぶん前から、ベストセラーと騒がれていたこの本、遅れ馳せながらやっと読みました。

主人公がおなじ年代だけに、引き込まれて読み終えた。いろんな恋愛があるだろうが、いい恋愛したいな。

「さらばヤマギシ」・・・以前このアストロラマにも登場したことのある、三重県在住の大窪興亜氏によるこの本は、自分の意志でヤマギシの村に参画し、何年かを村で過ごし、また自分の意志で村を離れた11人の人たちの手記からなっている。



自分の生まれた国をすて、他国で生きる人、何かを求めて別の生き方を探す人。人は皆それぞれに前を向いて一生懸命生きていると思う。たとえ自分が選んだ道が間違っているとしてもそれは次へ進むための大きな糧になっていることだろう。ヤマギシについては、私自身よくわからないし、参画したいとも思わないが、人間関係において何のストレスもない今の職場はまあまあ気に入ってやっている。

「納棺夫日記」・・・友人が発行した「さらばヤマギシ」を知り合いの本屋さんで紹介するため持って行って、逆にすすめられたのが、青木新門著の「納棺夫日記」。(桂書房)

はじめ納棺夫ときいてもピンとこなかった。死体をお棺に納める仕事をしている人の日記だと聞いて、そんな本があったのかと驚いた。

人の死に絶えず接している人には、詩心がうまれ、哲学が身につくそうで、美しい詩の本を、哲学の本をそれぞれ読んだような一冊でした。

もっともっというんな本を読まなくちゃと思いつつも、横になるとものの3分もしない内に寝入ってしまう私は、なかなか読む間がない。

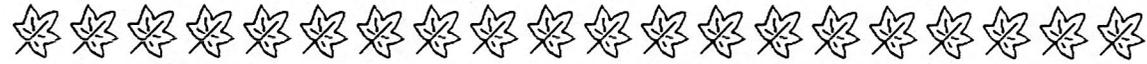
大体、6時間もコンピューターの前にいると、目に活字を読む元気がない。運転していても目を閉じたくなるくらいです。

視力の方もだんだんおちて、近眼やら老眼やら同時に進行しているらしい。

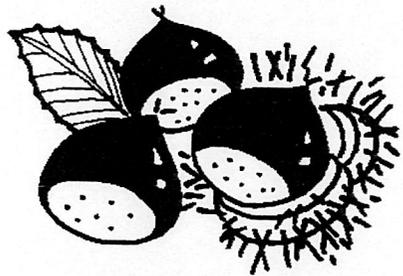
ま、これは仕方のないこと、これからはこころの眼をしっかりと開いて、観ることにしよう・・・と明るく生きるゆっこより愛をこめて！ では次号をお楽しみに。



# アストロラマ No. 89



発行者 桑原由紀子 630-01 ☎07437-8-1969  
生駒市上町9-12 1994.11.1



深まりゆく秋を楽しむ余裕もないほど、目まぐるしい日々を送っている私ですが、皆様の方はいかがお過ごしでしょうか？

着物姿のイラストを載せた88号を出したあと、ふと求人広告をみていて目に入ったのがかわいい着物姿のイラストの入った呉服屋さんの広告。なにか不思議なインスピレーションを感じて、その日のうちに電話して面接を予約。あっという間に就職が決まり、2年間勤め

た「ヤマギシズム奈良供給所」をやめることになりました。

10月から「(株)京ろまん」というステキな名前の呉服屋さんに勤めはじめました。着物が大好きな私にとって、毎日が目の正月。今、着物のことあれこれ勉強中ってところ

## アストロラマのお陰？

「京ろまん」に就職できた影の力は、このアストロラマかも・・・というのも、ずっと前に新聞の折り込みに入っていた「きもの通信」というB4一枚の小さな新聞に興味をもっていたところ、その発行者がこの「京ろまん」の社長だったわけです。

で、面接の折、そんな話からアストロラマに話題が広がり、忙しい合間に読んで下さったわけです。着物には縁もゆかりもないアストロラマですが、私が「きもの通信」から社長のメッセージみたいなのを感じ取ったように、書き手の想いがなにか伝わったのだと思います。人との出会い、物との出会い、すべての出会いにはそれなりの意味があり、大切にしたいといつも感じて生きている私にとって、「きもの通信」との出会いは大きな意味があったよう思います。

着物のことなら何でも、07437-8-7200 (京ろまん) 桑原までご相談ください。とCM.

## 「花子に一太郎」なんのこっちゃ

新しい仕事に加えてもうひとつ挑戦しているのがパソコンことパーソナルコンピュータ。前から興味はあったものの、なかなか手が出せなかったのが、仕事でパソコンが使えるようになってあわてて勉強中。ヤマギシでもコンピューターはさわっていたが、パソコンはまた、勝手が違う。まだまだチンプンカンプンのパソコン用語がいっぱいで、さびついた頭には難しい。何だかんだやってるうちに、ウソのように時間ばかりがやけに早く過ぎて今日やら明日やらわからない日々を送るハメに。

でもついていることに、新しくパソコンを買い替えるからと、古いのをそっくりもらったり、学校で1年かけて習うようなことを、1か月で教えてもらったりと持つべきものは友達だなんて、感謝々々の毎日です。

## 「光彩IV」無事終了

邦楽アンサンブル彩コンサート「光彩IV 秋いろいろ」・・・光彩シリーズのコンサートもはや、4回目を数え、上記のタイトルで10月8日、無事終えることができました。

一年一年、いろんな思いで過ごしてきて、一回一回の思い出が年輪のように重なって、大事な宝物となっています。

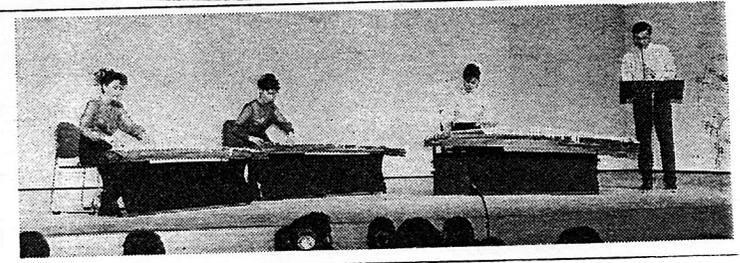
わたしの人生の大きな変化の中で、こうして歴史を刻んでいけるコンサートを持ててほんとうに良かったなと思います。

でも今回は苦しかったナ。仕事を変わったばかりで、頭はパニック、練習時間は激減他のメンバーにハッパをかけられ、おしりをたたかれ・・・どうにか終了。

1994.10.9 奈良新聞から

現代風アレンジ  
邦楽の魅力訴え  
香芝でコンサート  
現代風にアレンジした邦楽で知られる「邦楽アンサンブル彩」が8日、香芝市藤山のふたかみ文化センターでコンサートを開き、琴と尺八のハーモニーを奏でた。  
「彩」は、どの流派にも属さない三人の演奏者二人の尺八奏者で構成し、古典から現代音楽までジャンルを超え、邦楽の域にとどまらない新しい演奏で知られている。  
この日は、古典的な泉「秋の初風」のほか、現代風の「雪月花によせて」など七曲を演奏。「花」「夏の思い出」などを集めた唱歌メドレーでは、日本の四季の美しさをイメージさせる演奏を繰り広げた。  
メンバーの桑原由紀子さんは「琴や尺八といった邦楽は堅苦しいイメージがありますが、親しみやすい曲をリラックスして聴いて頂いて邦楽の魅力を感じてもらえれば」と話していた。

邦楽の魅力をあらためて感じさせた邦楽アンサンブル彩(香芝市藤山のふたかみ文化センター)で



この後は11月29日、明石市の「サントピア明石」にてコンサート。(要予約)  
12月11日は琴好き仲間を集めて「和のコンサート」で今年の予定は終わり。  
口ではもうやめたい、逃げだしたいと言いながらも、次々と仕事を引き受けてしまう私です。お琴が弾けることに感謝しなくちゃと思う次第です。

## 中島悠紀さんからの嬉しい便り

88号を出したあといただいたもので、夏のたよりになっておりますが、とっても勇気づけられ、嬉しくて何度も読み返した手紙なので紹介します。

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

連日の猛暑にぐったりしていた私のところへ一陣の風のようにアストロラマが涼しさを運んでくれました。

一気に読み終えて、私まで気力充実。“明るく生きるゆっこより愛をこめて”のお便りは効果抜群でした。

わたしは今、週3回、大阪・谷町の社会福祉開館にある“児童虐待防止協会”という民間団体に勤めています。“子どものホットライン”という電話相談や児童虐待の研究会を主事業としているところで、私は事務局の仕事全般をやっているのです。

40代後半からの再就職でしたが、現代社会のひずみを映し出す福祉の場において、考えること学ぶこと大です。得たことを家族や地域社会に還元できたらいいなと思っています。

「マディソン郡の橋」と「納棺夫日記」、私も読みました。とくに後者は感動を受け、友人達にも勧めていたので、桑原さんの感想を読んで、嬉しくなりました。他には「アンネの日記全訳」や、「思い出のアンネフランク」を読み、10代に読んだ時と違ったとらえ方をしている自分に人生の重みを感じました。

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

悠紀さん、どうも有難う。ほんとに嬉しいお便りでした。今子どもの世界でいろいろな問題がでているようですね。これはとりもなおさず、大人社会の問題なのではないでしょうか。こどもがおかしいと思う前に大人がおかしいと思える大人がどれだけいることでしょうか。

受験戦争に追い込んでいるのも、塾だお稽古だといって子どもからあそぶ時間をとりあげているのも大人なのだと思います。

大人のおもいのままになる子がいい子、みんなと同じではみださない子がいい子。

学校の先生までが大真面目にそんなふう考えているなんて、あまりに子どもがかわいそうだってなげいている人がいる。

子どもだって、大人だって一人ひとり違って当たり前なのにと私も思う。

悠紀さん、あなたのまわりからどんどん個性豊かな子どもたちがのびのび育つように、そしてそんな地域の輪が少しづつ少しづつ広がるといいね。

## 会計報告

|          | 摘要      | 収入     | 支出     | 残高      |
|----------|---------|--------|--------|---------|
| 94. 8. 1 | 繰越      |        |        | 14, 898 |
| 〃        | 送料(88号) |        | 9, 520 | 5, 378  |
| 8. 6     | カンパ(切手) | 2, 080 |        |         |
| 8. 20    | カンパ     | 1, 000 |        | 6, 378  |
| 〃        | カンパ     | 1, 000 |        | 7, 378  |

いつも暖かいカンパを有難うございます。

ネロリとカイリが行った後、今一緒に住んでいるのが、ニュージーランドからきているマティユー(マット)とトレイシーのカップル。

二人とも28才。パーター、アンネッテ同様にとても仲良くて、二人のお陰で家のなかはいつもほのぼのとした雰囲気です。

二人もまた、日本では英会話の先生をしています。でも2才や3才のまだ日本語もよくしゃべれない子どもに英語を習わせる親のことを不思議に思っています。

ワインに詳しいマットは、英語のタウン誌にワインパーティーの案内を出し、いろいろな国の人たちが4~5人集まってきました。日本の利き酒みたいな感じで、それぞれが持参したワインをみんなで味わいます。

共通するものは、ワインだけ・・・それでも初めて会った各国の人たちと、ワインの味を楽しみ、会話を楽しみとてもステキなひとときでした。

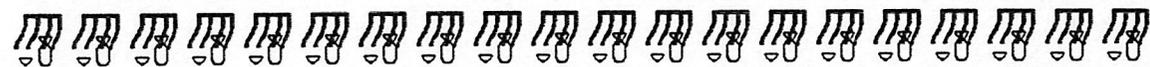
外国からきた人たちは、なかなか日本の家庭のなかに入りこめないとか、日本人って外面はいいけど、内面は見せないところがあるんですね。

もっともっとオープンになって自分を解き放せばもっと楽しめるのって思います。そうまずは自分からってところで、できるだけありのままの自分を出す練習中です。

ではまた皆様からのお便り待っています。次は来年になるだろう次号をお楽しみに！！

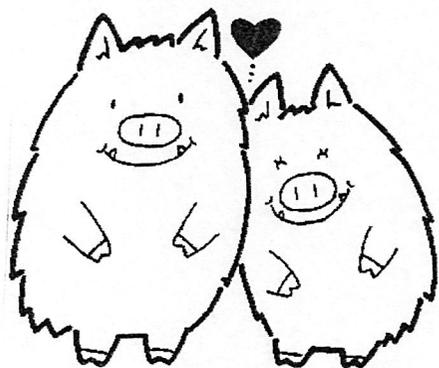


# アストロラマ No. 90



発行者 桑原由紀子 630-01 生駒市上町9-12 ☎07437-8-1969

1995. 1. 1



明けましておめでとうございます。例年のごとく皆様からの賀状有難うございました。私の方、このアストロラマで新年のあいさつとさせていただきます。

いろいろと変化のあった94年が過ぎて95年の幕開け、今年はどうなることやら・・・昨年10月に就職した「京ろまん」ではいろんなセミナーに参加させていただいたり、染色家の工房を見学させていただいたり、沙代ちゃん連れて社員旅行に連れてって下さったり、世間並み以上の年末年始休暇をいただいたりと、待遇の良さにつくづく有り難さをおぼえています。

はじめは、私に勤まるかしらんとした仕事にも大分慣れて、今では仕事もお琴も楽しくやっています。

## 骨休め寝正月

さて、その有り難い年末年始のお休み、あれもしよう、これもしよう張り切っていたのに、休みに入ったとたんに、風邪をひき、熱にうなされて新年を迎えると言う悲惨な有様。掃除もできず、買物ひとつ行けなかったけれど、正月はやってきた。私のまわりの心やさしい人々に助けられて・・・

沙代ちゃんには「お母さん、気がゆるみすぎたんだね。」って……  
そうかもしれないなあー。この2年間ただただ無我夢中で過ごしてきて、この長い休みについホッとしちゃったのかも。

振り返れば、本当にたくさんの人に助けられてここまで来たなって、改めて感謝の気持ちが出てきます。

あ り が と う。 そ し て あ り が と う。

## あこがれの人いっぱい

呉服業界では、営業マン向けのいろんなセミナーがあり、「京ろまん」では社員全員で参加させていただいています。そんなセミナーの講師の方々にはみんな私のあこがれの人になってしまいます。

営業マン向けのセミナーだから当然、いかにしたらたくさん着物を売ることができるかということなのですが、そこは営業マンとお客さま、つまり人と人のコミュニケーションが大切になってくるわけで、私には生き方のセミナーに聞こえてくるわけです。

どの先生も地道な努力と人を引き付ける魅力があり、信念を持った生き方をされておりとても素晴らしい方ばかりです。

そんなステキな方達の生の声が聞けるセミナーは、私にとって元気の出る薬みたい。なんだか、力が湧いてくるような気分させられます。

まだまだ失敗も多いですが、周囲の暖かい励ましと時々あるセミナーで、精一杯やろうって気になります。

人に恵まれ、仕事に恵まれ、有り難い事です。

## 陽気な下宿人

昨年11月に転がりこんできた下宿人こと、林 直子ちゃん。うら若き幼稚園の先生。彼女との出会いは、生駒のボランティアの集まり。昨年1月のこと、打ち上げの席でビール片手に話してる内に、何となく通じ合うものがあるなと思ったらなんと彼女も花博で政府苑のコンパニオンだったそうで納得。時代は違っても同じ仕事をやった仲間みたいな連帯感？というのかな不思議なものがあるようです。

その場はおおいに意気投合したものの、お互いほとんど会うチャンスもなかったのが、三度目に会った時にはもう下宿の話が決まっていたという不思議な人。

直子ちゃんがきてから我が家は、ニュージーランドのカップルと合わせて5人暮らし。幼稚園の先生ということで、沙代ちゃんにとってもいいお姉さん。子どもと遊ぶのは、私より上手い。料理も上手。

年末の忙しい時残業して帰ったら、部屋は暖まっていて、夕食はすぐにいただける状態に思わず「しあわせー」て言ったら、沙代子いわく

「お母さん、お父さんみたいだね」

直子ちゃんてきつといいお嫁さんになるだろな。

日に日に園児の部屋のように変化するリビングに私も沙代子も大喜び。

はじめは12月いっぱいと言ってたのが、

「もっと居たいな」

「もう少し居てよ」って感じで続いている。

こんな楽しい暮らしが一日でも長く続きますように！！



## 登校拒否

このところ子どもの自殺が続き、日本中がいじめについて色々と考えさせられている。いじめとか登校拒否。昔私たちが子どもだった頃は、あまり聞かなかったような気がする。私だけだろうか。とてもんびりと子ども時代を送ったような気がする。

我が家の沙代子も今、小学4年生。ときどき自分でもどうしようもないモヤモヤをぶつけてくる。

「勉強もイヤ。学校も大嫌い」と言ってくる。

「そうイヤなの、嫌いなもの」と一応受ける。

「今の子どもは大変だよ、勉強のペースは早いしやることはいっぱいあるし」とか話ながら、子どもの話に入っていくと、

「宿題ができてないから、学校休みたい」とくる。

「ま、それほど休みたいなら一日くらいのおんびり休もうか」となる。

これも登校拒否の始まりかと少し心配になるけれど、翌日はケロッとして学校へいくところをみると、そう深刻に考えることもなさそうだ。大人だってたまには何もかもさぼってボーっとしたい時があるんだし、休むことに罪悪感を感じてそれに縛られるよりはいいかと思う。あまり勉強に影響のない土曜日あたりになると休みたくなるのは、本人も計算の上かもしれない。

とにかく、何事も「ねばならない」思考より「～てもいい」思考に切り替えた方が良さそうだ。

まだ子どもにこんなこと言ってもわからないかもしれないが、少なくとも

「勉強しなくちゃいい学校に行けないよ」とか「大人になってから困るよ」とか脅迫めいたことは言いたくない。

最近、曾野綾子の「悲しくて明るい場所」を読んだ。常にベストではなくベターに生きる考え方。何だかひとつひとつが「ウンそうだそうだ」と思えるエッセイばかりで嬉しくなった。

## 会計報告

|           | 摘要      | 収入 | 支出     | 残高      |
|-----------|---------|----|--------|---------|
| 94. 11. 1 | 繰越      |    |        | 7, 378  |
| 〃         | 送料(89号) |    | 9, 200 | ▲1, 822 |
| 〃         | コピー代(〃) |    | 2, 400 | ▲4, 222 |

## 邦楽アンサンブル彩の活動

個人的な困難をそれぞれが乗り越えながらも、活動を続けている「邦楽アンサンブル彩」です。

昨年11月の明石でのコンサートでは、会場を間違えて(サビヲリヲトビヲリにて)載せたにもかかわらず、高島屋時代の大の仲良しだった土井あけみちゃん(旧姓森口)が聴きに来てくれて大感激。彼女とは双子と間違われるほど似てる、似てると言われた仲、昔と変わらぬ彼女に出会えて嬉しかった。

12月に開催した「和のコンサート」では、メンバーのひとりが、どうしても参加できなくなりアンサンブルはだめかなと思ったところ、優秀な代役に恵まれて無事終了。

本当にひとりひとりがかけがいのない「邦楽アンサンブル彩」です。

今年のはじめのコンサートは、

2月17日・・・あすか幼稚園にて、園児とお母さんのために  
あすか幼稚園は、沙代ちゃんが1年間通ったところ、邦楽アンサンブル彩を通じて地域のお母さん達と仲良くなれたらと楽しみにしているところ。

2月19日・・・マタニティコンサート(まほろばホールにて)  
昨年の反響がよかったのか、2度目の出演。期待が大きいだけに一に練習、二に練習。成功のかけには練習あるのみ。

3月1日・・・天理市二階堂養護学校にて  
邦楽アンサンブル彩の演奏でなにか通じあえたら、なにか感じあえたら嬉しいな。

こんな調子でつぎつぎと予定も入っている今、のんびり風邪ひいてる場合じゃないのにまったく思い通りにならない身体です。

3月には「京ろまん」のお店がもう一軒増えるそうで、仕事も忙しくなりそう。どうやら私には忙しすぎるくらいがいいのかも。今年もまた、くるくと働いて、きらきら輝いて生きたい。

何もかもおもいきりやれる今を大切に。  
いつも見守って下さるみんなに感謝して。  
今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

では、次号をお楽しみに!